

科目名	REL210: キリスト教文化入門			担当教員	小林 宏子		
開講期	秋	開講時限	月木4限	研究室	4204		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点	
	1,4	キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				1-①, 4-②	
キーワード	聖書、イエス・キリスト、神の愛、信仰、希望、倫理、芸術、聖人、宗教間対話						
授業の概要	複数講師による輪講形式でキリスト教文化の諸相を概観する。イエスは何を語り、何を行ったのか、そのイエスがキリストであると信じる人々の信仰理解と表現がどのような思想や生活習慣を生み出し、社会や歴史に影響を及ぼしてきたのかについて学ぶ。今もなお、世界の人々に様々なインスピレーションを与えているキリスト教文化を多面的に考察する。						
達成目標(授業の目的)	キリスト教とはどのようなことを目指している宗教であるのかを正しく理解するとともに、そのキリスト教が世界の歴史や文化、芸術に与えた影響について幅広い関心を持ち、自ら考察を進め、その結果を現代文化と関連づけて論じることができるようになる。						
到達目標(学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト講読を通してキリスト教の思想、及び、その地理的広がりや歴史的現実が、各地の文化に与えた影響の諸相を理解することができる。 ・講義を通して理解したキリスト教の信仰とその文化的表現の内容に関する自分自身の見解を発言し、また、論理的に記述できる。 ・キリスト教文化に関する項目の中から自らの選んだテーマについて研究成果を論述しわかりやすく口頭発表できる。 						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内小テスト (4%×5回=20%) ・授業毎のリアクションペーパー (2%×19回=38%) ・期末レポート (25%)、研究発表 (17%) 						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内小テスト：準備学修として読むテキストの内容を正しく理解しているか。 ・リアクションペーパー：授業を正しく理解し学んだことの要点をまとめ、自分の関心や問題意識を反映させた見解を論理的に記述できているか。 ・期末レポート：最低一冊の参考文献を読み、関心を寄せるテーマについて問いを提起し、先行研究を踏まえつつ、理由を挙げて自分の考えを、自分の言葉で論じ得るかどうか。 ・研究発表：期末レポートで研究した成果を、指定された時間内に分かりやすくまとめて発表できるかどうか。 						
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス：講義概要と課題の説明 ユダヤ教とキリスト教	講義・質疑応答	テキストはじめに-p.18を読む
2	ナザレのイエス(1) イエスの生涯と福音書	講義・質疑応答、リアクションペーパー	テキスト pp.18-38を復習する
3	ナザレのイエス(2) 律法学者との対立、イエスの死	講義・質疑応答、リアクションペーパー	テキスト pp.38-58を読む
4	キリスト教と音楽(1) 神の民の賛美と教会音楽	講義・質疑応答、リアクションペーパー	テキスト pp.60-71を読む
5	キリスト教の歴史(1) キリスト教の成立	講義・質疑応答、授業内小テスト①	テキスト pp.18-71を復習する
6	キリスト教と音楽(2) 典礼音楽と楽譜のかかわり	講義・質疑応答、リアクションペーパー	テキスト pp.71-92を読む
7	キリスト教の典礼 ミサ聖祭、教会の暦	講義・質疑応答、リアクションペーパー	テキスト pp.93-108を読む
8	キリスト教のシンボル、美術	講義・質疑応答、リアクションペーパー	テキスト pp.108-125を読む

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	キリスト教の歴史(2) キリスト教の発展と教会の分裂	講義・質疑応答、授業 内小テスト②	テキスト pp.71-125 を復習する
10	キリスト教と哲学(1) 知解を求める信仰とその系譜	講義・質疑応答、リア クションペーパー	テキスト pp.128-154 を読む
11	修道院の文化的貢献	講義・質疑応答、リア クションペーパー	テキスト pp.108-111,137-154 を読む
12	ローマ・カトリック教会	講義・質疑応答、授業 内小テスト③	テキスト pp.128-154 を復習する
13	キリスト教のヒューマニズム(1) イエズス会の宣教	講義・質疑応答、リア クションペーパー	テキスト pp.178-198 を読む
14	エキュメニズム運動の歴史と現在	講義・質疑応答、リア クションペーパー	テキスト pp.221-236 を読む
15	キリスト教のヒューマニズム(2) 東西の文化交流	講義・質疑応答、リア クションペーパー	テキスト pp.199-220 を読む
16	キリスト教のヒューマニズム(3) イエズス会の教育	講義・質疑応答、授業 内小テスト④	テキスト pp.178-236 を復習する
17	キリスト教の倫理(1) 悪の問題	講義・質疑応答、リア クションペーパー	テキスト pp.156-176 を読む
18	聖マリアについての伝承と祭り	講義・質疑応答、授業 内小テスト⑤	テキスト pp.156-176 を復習する
19	キリスト教の倫理(2) いのちと愛	講義・質疑応答、リア クションペーパー	テキスト pp.221-226 を読む
20	キリスト教の仏教(1) 「十牛図」に見る己事究明	講義・質疑応答、リア クションペーパー	期末レポートの準備
21	キリスト教と仏教(2) 宗教とは何か 「問われた者」として生きる	講義・質疑応答、リア クションペーパー	期末レポートの準備
22	キリスト教と哲学(2) 真理への愛、エディ ット・シュタインの思想と生涯	講義・質疑応答、リア クションペーパー	期末レポートの準備
23	時代の必要に応えた人びと(1) アシジの聖フランチェスコ	講義・質疑応答、リア クションペーパー	期末レポートの準備
24	時代の必要に応えた人びと(2) コルカタの聖テレサ(マザー・テレサ)	講義・質疑応答、リア クションペーパー	期末レポートの提出
25	研究発表(1)	発表と講評	研究発表の準備
26	研究発表(2)	発表と講評	研究発表の準備
	定期試験を実施しない		
27	研究発表(3)	発表と講評	研究発表の準備
28	キリスト教と現代	講義、レポート返却、 発表の講評	テキスト pp.221-226 を復習する

テキスト	山我哲雄『キリスト教入門』(岩波ジュニア新書)
参考書	宮越俊光『早わかりキリスト教』(日本実業出版社)
その他 特記事項	講師の都合により授業内容及び順序に変更が生じる可能性がある。

科目名	IDS210: 異文化間コミュニケーション			担当教員	C. Oliver	
開講期	春	開講時限	火金4限		研究室	4205
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要				学修成果獲得の観点
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				3-④, 4-②
キーワード	intercultural communication, linguistics, social psychology, anthropology, critical thinking					
授業の概要	This course provides an introduction to intercultural communication as an area of study. Readings and lectures will cover basic definitions, concepts, and issues related to intercultural communication. As regular homework, students will keep a record of their own intercultural communication experiences. We will also carry out one lengthy intercultural simulation in class. Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.					
達成目標 (授業の目的)	Students will learn to understand “intercultural communication” (ICC) using concepts coming from linguistics, social psychology, and anthropology; to describe and analyze their own experiences of ICC; and to think critically about ICC in relation to problems in modern societies.					
到達目標 (学修成果)	By the end of the semester, students will be able to understand key concepts related to ICC drawn from linguistics, social psychology, and anthropology and how they apply to specific examples; factually describe their own recent experiences of ICC and relate those experiences to concepts discussed in class; and explain, in writing, ways in which specific situations of ICC found in the world today are related to broader social and historical contexts and issues.					
評価方法	Participation 20%, Homework 40%, Tests 40%.					
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> • Participation: active participation in everyday class activities, including lectures and discussions; responses in in-class writing activities that demonstrate engagement with class content. • Homework: submitted on time and according to instructions, thoroughly completed, provides factual description where required, demonstrates appropriate application of concepts covered in class. • Tests: demonstrate ability to understand key concepts related to ICC and how they apply to specific examples, demonstrate ability to explain ways that specific situations of intercultural communication are related to broader social and historical contexts and issues. 					
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Course overview	lecture	Read course syllabus thoroughly, review class notes
2	Defining intercultural communication	lecture, pair work	Read p. 34, review syllabus & class notes
3	“Culture” in intercultural communication	lecture, pair work	Read pp. 9-10, 12-13; skim pp. 13-27; review class notes
4	Features of human communication: basic concepts	lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71; review class notes
5	Features of human communication: meaning and context	lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71; review class notes
6	Communication and language: language and thought	lecture, pair work	Write “ICC Experience” homework; read pp. 77-79, 83
7	Communication and language: aspects of meaning	lecture, pair work	Read pp. 77-79, 83; review class notes
8	Non-verbal communication: silence	lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	Non-verbal communication: functions	lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9
10	Edward T. Hall: the first interculturalist	lecture, pair work	Read pp. 49-50, 56, 96, 133; Write "ICC Experience" HW
11	Stereotypes: basic concepts	lecture, pair work	Read pp. 152-153; review class notes
12	Stereotypes: aspects and effects	lecture, pair work	Read pp. 152-153; review class notes
13	Values: basic concepts	lecture, pair work	Read pp. 16-19, 42-49; review class notes
14	Values: kinds of values	lecture, pair work	Write "ICC Experience" HW & "values" HW
15	Culture shock: definition, symptoms, varieties	lecture, pair work	Read pp. 158-165; review class notes
16	Communication "events": basic concepts; preparation for Test #1	lecture, pair work	Write "culture shock" homework; review class notes
17	Review; Test #1	lecture, written exam	Study for test
18	Communication "events": dimensions of norms	lecture, pair work	Write "ICC Experience" homework; review class notes
19	Intercultural training: principles and methods	pair work, lecture	Read Ch. 16, especially pp. 186-187; review class notes
20	Intercultural simulation: do in class	small-group discussion	Read handouts about simulation
21	Intercultural simulation: follow-up discussion	small-group discussion, lecture	Review class notes
22	Social and historical contexts of intercultural communication: Quebec	lecture, pair work	Write "ICC Experience" homework; review class notes
23	Social and historical contexts of intercultural communication: U.S. South	lecture, pair work	Review class notes
24	Return Test #1 and go over results; preparation for Test #2	lecture, pair work	Review textbook pages covered, handouts, class notes
25	Social and historical contexts of intercultural communication: American Indians	lecture, pair work	Review class notes
26	Practical implications for the study of ICC; paths toward better understanding of others	lecture, small-group discussion	Write "ICC Experience" homework; review class notes
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	Review; Test #2	lecture, written exam	Study for test
28	Return Test #2 and go over results; semester recap, including course evaluation	lecture, small-group discussion	Write "ICC Experience" homework

テキスト	Hidasi Judit. <i>Intercultural Communication: An Outline</i> (三元社).
参考書	石井 敏、久米 昭元、長谷川 典子、桜木 俊行、& 石黒 武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』(有斐閣)
その他特記事項	Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.

科目名	LIT201: 英文学概論			担当教員	飯田 純也	
開講期	春/秋	開講時限	火金3限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-②
キーワード	物語、聖書、映画、物語、モラル、パラブル、歴史、社会、抑圧、貧困、暴力、女性					
授業の概要	文学の裾野を広げ、広義の物語を通して人間と社会の関係性を研究する。物語の意義は問題提起にある。提起される問題は複数の学問領域に横断的に関わる。授業では、英語圏を代表する小説を取り上げ、現代とのかかわりで、物語が描く人間と社会を批判的に分析する。準備学習として、事前の指定DVD資料の視聴が求められる。小論文と期末レポートを書くためには、準備学習と授業を通してまとめられたノートが重要になる。					
達成目標 (授業の目的)	物語論の視点から、文学研究の意義と方法を学び、文学研究を通じて英語文化圏の歴史や社会を理解し、同時に文化を批判的に見る視座を獲得することを目標とする。さらに、毎回の講義内容を基に、自らの意見を事前配布資料と照らし合わせながら、小論文にまとめる能力を身につける。					
到達目標 (学修成果)	1. 英語文化圏を代表する文学作品を物語として分析、批判、評価することができる 2. 作品が描く歴史的・社会的問題や課題を理解することができる 3. 作品で扱われている諸問題を人文科学、社会科学の視点から考えることができる 4. 問題意識をもって文学作品を見る習慣ができる 5. 議論をまとめる能力を身につけることができる					
評価方法	①小論文（8/9回提出で計40%）では作品の背景を理解した上で、作品を分析、批判、評価できているか。②定期試験（30%）では何が問題か理解できているか、問題を分析的・批判的に、根拠を示し自分のことばで論述できるか。③シャトルカード（計30%）では問題意識をもって文学作品を見る習慣ができているか。					
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。					
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	授業紹介 ジャンルではなく物語研究倫理の説明	講義、質疑応答、ペアワーク	課題DVDのリストを基に入手先を検討する
2	物語論：エンディングは問題提起（1） <i>Citizen Kane</i> (1941 movie)	講義、質疑応答	課題DVD視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
3	物語論：エンディングは問題提起（2） <i>Black Orpheus</i> (1959 movie)	講義、質疑応答、グループ討論	課題DVD視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
4	物語論：エンディングは問題提起（3） <i>A Man and a Woman</i> (1966 movie)	講義、質疑応答、グループ討論	小論文no.1の準備（提出は次回授業時）
5	聖書と文学 パラブルとは何か	講義、質疑応答	課題資料下調べ、筋と要点をノート
6	聖書のパラブル アブサローム物語（英文）	講義、質疑応答、グループ討論	小論文no.2の準備（提出は次回授業時）
7	暴力を繰り返す社会のパラブル（1） <i>Romeo and Juliet</i>	講義、質疑応答	課題DVD視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
8	暴力を繰り返す社会のパラブル（2） <i>Tristan and Isolde</i>	講義、質疑応答、グループ討論	小論文no.3の準備（提出は次回授業時）

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	作品研究 <i>A Passage to India</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
10	作品研究 <i>A Passage to India</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 4 の準備(提出は次回授業時)
11	作品研究 <i>Vanity Fair</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
12	作品研究 <i>Vanity Fair</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 5 の準備(提出は次回授業時)
13	作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
14	作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 6 の準備(提出は次回授業時)
15	作家研究 Charles Dickens: <i>David Copperfield</i>	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
16	作家研究 Charles Dickens: <i>Nicholas Nickleby</i>	質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
17	作家研究 Charles Dickens: <i>Oliver Twist</i>	講義、質疑応答	小論文 no. 7 の準備(提出は次回授業時)
18	作家研究 Jane Austen: <i>Sense and Sensibility</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
19	作家研究 Jane Austen: <i>Pride and Prejudice</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
20	作家研究 Jane Austen: <i>Mansfield Park</i>	講義、質疑応答	小論文 no. 8 の準備(提出は次回授業時)
21	英国社会研究 (1) 奴隷貿易と <i>Jane Eyre</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
22	英国社会研究 (2) 奴隷制度廃止運動と <i>Wuthering Heights</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
23	米国社会研究 (1) ピューリタン社会と <i>The Scarlet Letter</i>	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
24	米国社会研究 (2) 資本主義社会と <i>The Great Gatsby</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
25	英米社会研究 プロテスタンティズムの世界観	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
26	英米社会研究 総論	講義、質疑応答、グループ討論	小論文 no. 9 の準備(提出は次回授業時)
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	文学研究の応用「学際(interdisciplinary)とは」「予型論(typology)の罪」	講義、質疑応答、シャトルカード返却	課題資料下調べ、要点をノート
28	定期試験の返却と講評	講義、グループ討論	シャトルカードの読み返しと学修内容の振り返り

テキスト	テキストは特に使用しない。授業で扱う作品の英文資料(課題資料)を事前に配布する。
参考書	Herman, David, ed. <i>The Cambridge Companion to Narrative</i> (Cambridge University Press, 2007).
その他特記事項	この授業では世界史の知識が前提となるので、特に 18 世紀以降の英米を中心とする歴史を復習すること。

科目名	LNG200: 言語学概論			担当教員	神谷 雅仁		
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4215		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要				学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-②	
キーワード	言語とは、英語史、音素、語形成、生成文法、文／発話の意味、言語のバリエーション						
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストをまとめたレジュメと担当者の準備したハンドアウト（練習問題を含む）をもとに講義形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関する review を行う。						
達成目標（授業の目的）	本講は学生が対象言語となっている英語の音声・音韻の体系、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語構造、および歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論に触れ、その理解を深めることを目標とする。						
到達目標（学修成果）	学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系／構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活（母語、第二言語、および学習言語）に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。さらに理解したことを整理立てて、用語の定義や言語例を含めたかたちで説明することができるようになる。						
評価方法	▶中間試験（30%）、定期試験（40%）、▶Book Report（20%）、▶授業参加度（10%）						
評価基準	▶中間試験、および期末試験（客観式）：試験までの学修内容について、用語、概念、理論的枠組みなどが言語例とともに理解され、定着しているかが問われる。特に記述形式の問題については、用語／概念の定義に始まり、言語例を用いた説明がしっかりなされているか、そして指示に従ったかたちで過不足なく論じられているかが問われる。 ▶Book Report：Booklistにある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約（書かれている内容を理解した上で、章や節ごとにしっかりとまとめられているか）と自分の見解（どのような発見があったか、どのような疑問が浮かんできたか、どのような課題が見つかったかなどについて分析的、批判的に論述できているか）を含めたブックレポートとなっているか。 ▶授業参加度：授業内での発言、および各単元で学んだ内容を Unit Review という課題にまとめ、期限内に提出できたかどうか。						
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	Course overview & the study of language 本講を概観する&言語を研究するとは？	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト全体に目を通す 「はじめに」を読む
2	What is Language? 人間にとって言語とは何か？	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	テキストを読む（ch.1-2）、レジュメの予習・復習
3	What is Language? 言語の定義	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	テキストを読む（ch.1-2）、レジュメの予習・復習
4	What is Language? 言語の特性	講義、ディスカッション、質疑応答	レジュメの予習・復習、 Unit Review の作成
5	What is Linguistics? 言語学という分野	講義、ディスカッション、質疑応答	レジュメの予習・復習、 Unit Review の作成
6	History of English 英語の歴史：古英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.3-5）、レジュメの予習・復習
7	History of English 英語の歴史：中英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む（ch.3-5）、レジュメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
8	History of English 英語の歴史：近代英語	講義、ディスカッション、質疑応答	レジュメの予習・復習、Unit Review の作成
9	Phonetics 音声学：言語音の分類	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.8-9)、レジュメの予習・復習
10	Phonology 音韻論：音素	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.8-9)、レジュメの予習・復習
11	Phonology 音韻論：音節	講義、ディスカッション、質疑応答	練習問題をやる、レジュメの予習・復習
12	Phonology 音韻論：超分節音素 Review 前半のまとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	レジュメの予習・復習、前半内容の見直し、テスト準備
13	Mid-term Test 中間試験 Morphology 形態論：形態素とは	試験実施、講義、質疑応答	前半内容の復習、テキストを読む(ch.10)
14	Test review 試験結果の返却、および解説 Morphology 形態論：異形態	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.10)、レジュメの予習・復習、
15	Morphology 形態論：語形成	講義、ディスカッション、質疑応答	レジュメの予習・復習、Unit Review の作成
16	Syntax 1 統語論 1 伝統文法と構造主義言語学	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.11-12)、レジュメの予習・復習
17	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：基本的概念/言語観	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.11-12)、レジュメの予習・復習
18	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：句構造規則	講義、ディスカッション、質疑応答	練習問題をやる、レジュメの予習・復習
19	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：変形規則	講義、ディスカッション、質疑応答	レジュメの予習・復習、Unit Review の作成
20	Semantics 意味論：言語学における意味とは	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.13-16)、レジュメの予習・復習
21	Semantics 意味論：語の意味	講義、ディスカッション、質疑応答	練習問題をやる、Unit Review の作成
22	Pragmatics 語用論 語用論とは：基本概念	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.17-20)、レジュメの予習・復習
23	Pragmatics 語用論 発話行為、会話の含意	講義、ディスカッション、質疑応答	練習問題をやる、Unit Review の作成
24	Communication and culture 文化と文脈、コミュニケーション	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.21-22)、レジュメの予習・復習
25	Sociolinguistics 社会言語学 言語のバリエーション・言語政策/計画	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.6 & 23-24)、Book Report の作成
26	Second Language Acquisition 第二言語習得 外国語教授法 Review 後半のまとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	テキストを読む(ch.25)、後半内容の見直し、テスト準備
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Think about language and human mind 言語と心について考える	講義、ディスカッション、質疑応答	言語に関連する配布物の予習
28	Test review 定期試験の返却、および解説 Course review 全体のまとめ	講義、質疑応答	テスト問題の見直し

テキスト	長谷川瑞穂(編著)『はじめての英語学』(研究社)
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』(講談社現代新書) 大津由紀雄『探検!ことばの世界』(ひつじ書房)
その他 特記事項	本講は言語研究領域に属する専門科目、および言語系のゼミナール受講への基礎知識を与えるものである。

科目名	LNG200: 言語学概論				担当教員	近藤 佐智子		
開講期	秋	開講時限	月木3限		研究室	4208		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-②	
キーワード	言語とは、英語史、音素、語形成、生成文法、文/発話の意味、言語のバリエーション							
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストと担当者の準備した資料(様々な練習問題を含む)をもとに講義およびディスカッション形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関する復習を質疑応答の形で行う。							
達成目標(授業の目的)	本講の目標は学生が対象言語となっている英語の音声・音韻の体系、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語構造、および歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論の理解を深めることである							
到達目標(学修成果)	学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系/構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活(母語と外国語)に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。							
評価方法	理解度テスト(25%) 定期試験(45%) ブックレポート(20%) 授業参加度(10%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト(25%)：学期の3分の1の内容についての理解と定着度を確認する。 定期試験(45%)：理解度テスト以降の内容についての理解と定着度を確認する。 ブックレポート(20%)：ブックリストにある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約(記述内容を理解した上で、要点がまとめられているかどうか)と自分の見解(本から学んだことを踏まえ、どのような新たな発見があったか、どのような疑問が浮かんできたか、どのような課題が見つかったかなどについて論述できているかどうか)を含めたブックレポートを作成する。 授業参加度(10%)：授業内(復習時、グループディスカッション)での発言回数と内容、ブックレポートの口頭発表で分かりやすく伝えることができたか。 							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview & the study of language 本講を概観する&言語を研究するとは?	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト全体に目を通す
2	What is Language? 人間にとって言語とは何か?	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	テキスト(ch.1-2)、レジユメの予習・復習
3	What is Language? 言語の定義・特性	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch.1-2)、レジユメの予習・復習
4	What is Linguistics? 言語学という分野	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch.1-2)、レジユメの予習・復習
5	History of English 英語の歴史：古英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch.3-5)、レジユメの予習・復習
6	History of English 英語の歴史：中英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch.3-5)、レジユメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	History of English 英語の歴史：近代英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 3-5)、レジユメの予習・復習
8	Phonetics 音声学：言語音	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
9	Phonology 音韻論：音素	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
10	Phonology 音韻論：超分節音素	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 8-9)、レジユメの予習・復習
11	Morphology 形態論：形態素とは？	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 10)、レジユメの予習・復習
12	Morphology 形態論：語形成	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 10)、レジユメの予習・復習
13	In-Class Test 理解度テスト(40分)、ブックレポートの書き方、復習(60分)	テスト実施 講義、質疑応答	テキスト(ch. 1-10)、レジユメの予習・復習、テスト準備
14	Syntax 1 統語論 1 伝統文法、アメリカ構造主義言語学	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
15	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：言語観・アプローチ、テストの返却と講評	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
16	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：句構造規則と変形規則	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 11-12)、レジユメの予習・復習
17	Semantics 意味論：語の意味	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 13-16)、レジユメの予習・復習
18	Semantics 意味論：句・文の意味	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 13-16)、レジユメの予習・復習
19	Pragmatics 語用論 語用論とは：基本概念	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 17-20)、レジユメの予習・復習
20	Pragmatics 語用論 発話行為、会話の含意、ポライトネス	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 17-20)、レジユメの予習・復習
21	Communication and culture 文化と文脈、コミュニケーション	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 21-22)、レジユメの予習・復習
22	Sociolinguistics 社会言語学 言語のバリエーション	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 6 & 23-24)、レジユメの予習・復習
23	Sociolinguistics 社会言語学 言語政策	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 23-24)、レジユメの予習・復習
24	Second Language Acquisition 第二言語習得 様々な第二言語習得理論	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 25)、レジユメの復習、テスト準備
25	Second Language Acquisition 第二言語習得 外国語教授法	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 25)、レジユメの予習・復習
26	Review 定期試験範囲の総復習	講義、ディスカッション、質疑応答	試験範囲の復習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Presentation ブックレポート口頭発表	口頭発表 ディスカッション	ブックレポート提出
28	Presentation ブックレポート口頭発表 Test review 定期試験の返却、および解説	口頭発表 講義、質疑応答	試験問題の復習

テキスト	長谷川瑞穂(編著)『はじめての英語学』(研究社)
参考書	黒田龍之介『はじめての言語学』(講談社現代新書) 大津由紀雄『探検！ことばの世界』(ひつじ書房)

科目名	EDU205: 児童英語教育概説				担当教員	狩野 晶子		
開講期	春	開講時限	月木5限		研究室	4203		
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-②, 5-②	
キーワード	児童英語教育、小学校外国語活動・外国語（英語）、第二言語習得、実践							
授業の概要	児童英語教育に関連する様々な専門分野（児童心理学、言語習得理論、教育学、社会学、英語教授法など）に触れながら、児童英語と小学校英語の背景や基礎について学ぶ。授業ではグループワーク、発表を通し、学習した内容を実践・体験する。							
達成目標（授業の目的）	児童英語教育の基本的知識を学び、児童英語教育の位置づけや児童期の特性を理解しながら児童期にふさわしい教授法について学ぶ。授業の中で指導の練習や実践を積み、児童英語指導者としての基礎力を身に付ける。							
到達目標（学修成果）	児童英語の教授法の基礎知識と応用アクティビティを実践する体験を通して、指導の際の実際の観点を学ぶ。さらに学生相互の実践演習を通じて、効果的な実践方法を体験的に学び、児童英語教育において実際の指導に活かすことができるような基本的知識を得る。							
評価方法	①授業への積極的な参加（20%）②授業時に課すコメントシート（20%）③実践発表の準備と成果（30%）④レポートなどの課題（30%）							
評価基準	①グループ・ワークなども含め自発的に授業に取り組んでいるか。②学習した内容を踏まえ、自身の言葉で考えを述べているか。③実践発表の準備、練習が十分になされ、協同的に取り組んでいるか。④提示された課題に即した適切な内容であり、自分の言葉で具体的に表現しているか。							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	児童英語教育が目指すものとは	講義、コメントシート	復習：ポイントを整理理解
2	外国語の指導法①：学習指導要領、小中連携、児童や学校の多様性（Unit1-3）	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.10-18 復習：ポイントを整理理解
3	外国語の指導法②：言語習得とインプット、コミュニケーションの目的（Unit4-5）	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.22-26 復習：ポイントを整理理解
4	外国語の指導法③：音声から文字へ、国語教育との連携（Unit6-7）	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.30-34 復習：ポイントを整理理解
5	外国語の指導法④：Classroom English, small talk、文字言語、題材選定（Unit8-10）	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.38-46 復習：ポイントを整理理解
6	外国語の指導法⑤：ALT、ICT等の活用、学習状況の評価（Unit13-15）	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.58-66 復習：ポイントを整理理解
7	外国語に関する専門的事項①：児童文学（Unit7-8、第三部 Unit14）	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.96-100, 186-189 復習：ポイントを整理理解
8	理論と実践：storybook reading① 第一回レポートについて提示	講義、学生指導実践発表、相互評価	絵本選択、実践準備・練習
9	理論と実践：storybook reading②	講義、学生指導実践発表、相互評価	絵本選択、実践準備・練習
10	外国語に関する専門的事項②：音声、発音と綴り、文構造、文法（Unit2-5）	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.76-88 復習：ポイントを整理理解

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	外国語に関する専門的事項③：第二言語習得、異文化理解 (Unit6, 9)	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.92-95, 104-107 復習：ポイントを整理理解
12	外国語に関する専門的事項④：コミュニケーション4技能、領域統合 (Unit11-15)	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.112-128 復習：ポイントを整理理解
13	外国語活動の指導法①：発達心理学、児童の認知・情緒発達 (Unit3, 5)	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.142-145, 150-153 復習：ポイントを整理理解
14	外国語活動の指導法②：学級担任と外部指導者 (Unit6)	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.154-157 復習：ポイントを整理理解
15	アクティビティのポイントとは	講義、グループワーク、コメントシート	予習：pp.166-182 復習：ポイントを整理理解
16	理論と実践：アクティビティ①	講義、学生指導実践発表、相互評価	実践準備・練習
17	理論と実践：アクティビティ②	講義、学生指導実践発表、相互評価	実践準備・練習
18	理論と実践：アクティビティ③	講義、学生指導実践発表、相互評価	実践準備・練習
19	理論と実践：アクティビティ④	講義、学生指導実践発表、相互評価	実践準備・練習
20	これまでの復習・まとめ 中間課題について提示	講義、グループワーク、コメントシート	復習：ポイントを整理理解
21	レッスンプラン作成方法・ポイント	講義、グループワーク、コメントシート	復習：ポイントを整理理解
22	理論と実践：アクティビティ改訂版①	講義、学生指導実践発表	実践準備・練習
23	理論と実践：アクティビティ改訂版②	講義、学生指導実践発表	実践準備・練習
24	理論と実践：アクティビティ改訂版③	講義、学生指導実践発表	実践準備・練習
25	理論と実践：アクティビティ改訂版④	講義、学生指導実践発表	実践準備・練習
26	これからの児童英語教育まとめ：児童期の特性、第二言語習得理論などの視点から	講義、グループワーク、コメントシート	復習：ポイントを整理理解
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	グループディスカッション・質疑応答・省察	講義、グループワーク、コメントシート	復習：ポイントを整理理解
28	全体のまとめ・振り返り 最終課題について提示	講義、グループワーク、コメントシート	全体の復習

テキスト	小川隆夫・東仁美(著)、吉田研作(監修)『小学校英語はじめる教科書外国語科・外国語活動指導者養成のために』(mpi 松香フォニックス)
参考書	上智大学 C LT プロジェクト編『コミュニケーションな英語教育を考える：日本の教育現場に役立つ理論と実践』(アルク)
その他 特記事項	この科目は小学校での英語指導を行うサービラーニング活動への参加と連動した「児童英語教育演習 A/B」の前提科目である。

科目名	GMN101: ドイツ語 I				担当教員	工藤 花野		
開講期	春／秋	開講時限	(春) 月木 4 限 (秋) 月木 3 限		研究室	4 号館 2 階 講師控室		
分類	選択	単 位	2	標準受講年次	1・2 年	オフィスアワー	P.19～P.20 を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	基礎ドイツ語、初級ドイツ語文法							
授業の概要	初心者にとっての「読む・書く・聞く・話す」力の基礎となる文法を中心に、丁寧に時間をかけて進めていきます。対話文やドリルを用いた「読む・書く」練習や、ペアワーク等による会話形式の「聞く・話す」練習を通じて、総合的な基礎力を身につけます。							
達成目標 (授業の目的)	「読む・書く・聞く・話す」力の総合的な訓練により、ドイツ語の発音、基礎的文法力、基礎的表現力を合理的に身につける。							
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読みと発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の活用の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・簡単な会話や文章を理解し、作文できる。 ・日常で用いる基本的な語彙を身につける。 							
評価方法	授業参加の積極性 (15%)、授業毎の課題提出 (15%)、授業内試験 (35%)、定期試験 (35%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加 (個人やペア等での発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する) ・課題提出 (授業毎の短い課題提出により、授業内容・文法事項・新出語彙を確認する) ・試験 (授業内試験と定期試験により、文法・読み・書きの力を確認する) 							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入、授業概要の説明 アルファベットと発音・挨拶・数字	演習 (発音)	テキスト (以下略) S.7-9 の整理、次回提出用課題準備 1
2	[Lektion 1] 出会いと自己紹介 動詞の現在人称変化 (語順 1)	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.10, 13 の整理 次回提出用課題準備 2
3	[Lektion 1] 出会いと自己紹介 sein の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.11, 13 の整理 次回提出用課題準備 3
4	[Lektion 1] 出会いと自己紹介 会話と作文・会話表現 1 (自己紹介)	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.12, 13, 76 の整理 次回提出用課題準備 4
5	[Lektion 2] 家族について尋ねる 名詞の性と定冠詞の格変化	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.14, 17 の整理 次回提出用課題準備 5
6	[Lektion 2] 家族について尋ねる 不定冠詞の格変化と haben の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.15, 17 の整理 次回提出用課題準備 6
7	[Lektion 2] 家族について尋ねる 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.16, 17 の整理 次回提出用課題準備 7
8	[Lektion 3] 明日の予定を尋ねる 不規則動詞の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.18, 21 の整理 次回提出用課題準備 8
9	[Lektion 3] 明日の予定を尋ねる 命令形	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.19, 21 の整理 次回提出用課題準備 9
10	[Lektion 3] 明日の予定を尋ねる 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.20, 21 の整理 次回提出用課題準備 10

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	[Lektion 4] 買い物に行く (1) 定冠詞類	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.22, 25 の整理 次回提出用課題準備 11
12	[Lektion 4] 買い物に行く (1) 不定冠詞類・所有冠詞・否定冠詞	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.23, 25 の整理 次回提出用課題準備 12
13	[Lektion 4] 買い物に行く (1) 会話と作文・会話表現 2（趣味と家族）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.24, 25, 76 の整理 試験準備（S.7-25, 76, 77）
14	Lektion 1-4 の総括・質疑応答（30分） 授業内試験（60分）	質疑応答 試験	S.7-25, 76, 77 の整理
15	Lektion 1-4 の総括・試験解答 [Lektion 5] 買い物に行く (2) 複数形	試験解答、試験返却、 演習	S.26, 29 の整理 次回提出用課題準備 13
16	[Lektion 5] 買い物に行く (2) 人称代名詞の格変化・3格と4格の語順	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.27, 29 の整理 次回提出用課題準備 14
17	[Lektion 5] 買い物に行く (2) 会話と作文・会話表現 3（数字と買い物）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.28, 29, 42, 43, 78 の整理 次回提出用課題準備 15
18	[Lektion 6] 週末の予定を尋ねる 2格・3格・4格支配の前置詞	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.30, 33 の整理 次回提出用課題準備 16
19	[Lektion 6] 週末の予定を尋ねる 3・4格支配の前置詞・定冠詞との融合形	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.31, 33 の整理 次回提出用課題準備 17
20	[Lektion 6] 週末の予定を尋ねる 会話と作文・会話表現 4（予定）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.32, 33, 78, 79 の整理 次回提出用課題準備 18
21	[Lektion 7] 趣味について尋ねる 形容詞の格変化（無冠詞型）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.34, 37 の整理 次回提出用課題準備 19
22	[Lektion 7] 趣味について尋ねる 形容詞の格変化（定冠詞・不定冠詞）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.35, 37 の整理 次回提出用課題準備 20
23	[Lektion 7] 趣味について尋ねる 会話と作文	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.36, 37 の整理 次回提出用課題準備 21
24	[Lektion 8] 昼食を食べに行く 話法の助動詞と現在人称変化	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.44, 47 の整理 次回提出用課題準備 22
25	[Lektion 8] 昼食を食べに行く 話法の助動詞の構文（語順2）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.45, 47 の整理 次回提出用課題準備 23
26	[Lektion 8] 昼食を食べに行く 会話と作文・会話表現 5（食事）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.46, 47, 80 の整理 試験準備（S.26-37, 44-47）
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Lektion 5-8 の総括・試験解答 時刻と日付の表現	試験解答、試験返却、 演習	S.40, 42, 43, 78, 79 の整理 次回提出用課題準備 24
28	道案内の表現	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.41, 79 及び配布物の整理

テキスト	上野成利・本田雅也『パノラマ初級ドイツ語ゼミナール [三訂版] (CD付)』（白水社）
参考書	橋本政義・橋本淑恵・Heike Pinnau『CD付き 使ってみよう！ドイツ語 文法+4技能のトレーニング』（三修社）
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワークやグループワークが滞るので毎回の出席が望ましい。また、辞書の持参を推奨する。

科目名	GMN102: ドイツ語Ⅱ			担当教員	工藤 花野	
開講期	春	開講時限	月木3限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-①
キーワード	基礎ドイツ語、基礎ドイツ語文法の完成					
授業の概要	ドイツ語Ⅰに引き続き、「読む・書く・聞く・話す」力の基礎となる文法を中心に、丁寧に時間をかけて進めていきます。対話文やドリルを用いた「読む・書く」練習や、ペアワーク等による会話形式の「聞く・話す」練習を通じて、バランスのとれた基礎力を鍛えながら、より複雑な表現方法を修得します。					
達成目標 (授業の目的)	ドイツ語Ⅰで習得した語彙力・文法力を再確認しながら、さらに学習を進めて、ドイツ語の「書く・読む・聞く・話す」力の総合的な訓練により、ドイツ語の発音、基礎的文法力、基礎的表現力の完成を目指す。					
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読み方と発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・より複雑な構文の文章を理解し、作文することができる。 ・新出語彙を身につける。 					
評価方法	授業参加の積極性（15%）、授業毎の課題提出（15%）、授業内試験（35%）、定期試験（35%）					
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加（個人やペア等での発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する） ・課題提出（授業毎の短い課題提出により、授業内容・文法事項・新出語彙を確認する） ・試験（授業内試験と定期試験により、文法・読み・書きの力を確認する） 					
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均45分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion 1-4] 動詞の活用と語順・冠詞と冠詞類の格変化	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	テキスト（以下略）S.10-25の整理、次回提出用課題準備1
2	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion 5-6] 複数形・人称代名詞の格・前置詞の格支配	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.26-33の整理 次回提出用課題準備2
3	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion 7-8] 形容詞・話法の助動詞と未来形の構文	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.34-47の整理 次回提出用課題準備3
4	[Lektion 9] 駅の窓口で尋ねる 分離動詞・非分離動詞と分離動詞の構文	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.48, 51の整理 次回提出用課題準備4
5	[Lektion 9] 駅の窓口で尋ねる 従属接続詞と複文	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.49, 51の整理 次回提出用課題準備5
6	[Lektion 9] 駅の窓口で尋ねる 会話と作文	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.50, 51の整理 次回提出用課題準備6
7	[Lektion 10] 休暇の計画を尋ねる zu不定詞	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.52, 55の整理 次回提出用課題準備7
8	[Lektion 10] 休暇の計画を尋ねる 再帰代名詞・再帰動詞	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.53, 55の整理 次回提出用課題準備8
9	[Lektion 10] 休暇の計画を尋ねる 会話と作文・会話表現6（計画）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.54, 55, 80の整理 次回提出用課題準備9
10	[Lektion 11] 旅の体験を語る（1） 動詞の3基本形	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.56, 59の整理 次回提出用課題準備10

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	[Lektion 11] 旅の体験を語る (1) 動詞の過去人称変化・分離動詞の過去形	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.57, 59 の整理 次回提出用課題準備 11
12	[Lektion 11] 旅の体験を語る (1) 会話と作文	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.58, 59 の整理 次回提出用課題準備 12
13	[Lektion 12] 旅の体験を語る (2) 現在完了形・他動詞と自動詞	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.60, 63 の整理 次回提出用課題準備 13
14	[Lektion 12] 旅の体験を語る (2) 非人称表現	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.61, 63 の整理 次回提出用課題準備 14
15	[Lektion 12] 旅の体験を語る (2) 会話と作文・会話表現 7（体験）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.62, 63, 81 の整理 試験準備（S.48-63, 80, 81）
16	Lektion 9-12 の総括・質疑応答（30分） 授業内試験（60分）	質疑応答 試験	S.48-63, 80, 81 の整理
17	Lektion 9-12 の総括・試験解答 [Lektion 13] 意見を交換する (1) 受動態	試験解答、試験返却、 演習	S.64, 67 の整理 次回提出用課題準備 15
18	[Lektion 13] 意見を交換する (1) 形容詞と副詞の比較級	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.65, 67 の整理 次回提出用課題準備 16
19	[Lektion 13] 意見を交換する (1) 会話と作文	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.66, 67 の整理 次回提出用課題準備 17
20	[Lektion 14] 意見を交換する (2) 定関係代名詞・関係文の構文	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.68, 71 の整理 次回提出用課題準備 18
21	[Lektion 14] 意見を交換する (2) 不定関係代名詞・関係副詞	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.69, 71 の整理 次回提出用課題準備 19
22	[Lektion 14] 意見を交換する (2) 会話と作文	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.70, 71 の整理 次回提出用課題準備 20
23	[Lektion 15] 別れと再会の約束 接続法 I 式の形態と用法	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.72, 75 の整理 次回提出用課題準備 21
24	[Lektion 15] 別れと再会の約束 接続法 II 式の形態と用法	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.73, 75 の整理 次回提出用課題準備 22
25	[Lektion 15] 別れと再会の約束 会話と作文・会話表現 8（意見交換）	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.74, 75, 81 の整理 次回提出用課題準備 23
26	受動態・関係文・接続法の練習問題	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	S.64-75, 81 ・配布物の整理 試験準備（S.64-75, 81）
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Lektion 13-15 の総括・試験解答 受動文・関係文・接続法の練習問題	試験解答、試験返却、 演習	配布物の整理 次回提出用課題準備 24
28	再帰動詞の練習問題	演習（発音、ペアワーク、ドリル、作文）	配布物の整理

テキスト	上野成利・本田雅也『パノラマ初級ドイツ語ゼミナール [三訂版] (CD付)』（白水社）
参考書	橋本政義・橋本淑恵・Heike Pinnau『CD付き 使ってみよう！ドイツ語 文法+4 技能のトレーニング』（三修社）
履修条件、 前提科目	ドイツ語 I の単位を修得済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。（『履修要覧』P.62～P.63 を参照のこと。）
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワークやグループワークが滞るので毎回の出席が望ましい。また、辞書の持参を推奨する。

科目名	FRN101: フランス語 I				担当教員	塩谷 優衣		
開講期	春/秋	開講時限	(春) 月木 4 限 (秋) 月木 3 限		研究室	4号館 2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	フランス語入門							
授業の概要	本科目はフランス語入門者を対象とする。発音とつづり字の関係、名詞の性と数、動詞の活用等の基本要素と基礎的な文法を学び、フランス語を聞き、話し、読み、書く練習をする。教材は原則テキストを用いるが、進捗状況に応じてシャンソン等のテキスト外の資料も扱う。							
達成目標 (授業の目的)	フランス語の基本要素と基礎的な文法を、聞き、話し、読み、書く練習を通して習得する。より難度の高いフランス語を運用するために必要となる基礎力を養う。							
到達目標 (学修成果)	① 簡単な単語、文をフランス語らしく発音することができる。 ② 簡単な単語、基本的な動詞の活用形を正しくつづることができる。 ③ 自分や自分の周囲の事柄について短い作文をすることができる。 ④ 基礎的な文法を用いた文を読んで正しく理解し、書くことができる。							
評価方法	① 授業中に行うグループワークへの参加、発表 (15%) ② 小テスト (20%) ③ 仏作文 (15%) ④ 第1回授業内試験 (20%)、第2回授業内試験 (30%)							
評価基準	① 他の学生と協力し、積極的に練習に参加しているか。発表文を暗記し、フランス語らしく発音できているか。 ② 学んだ単語や動詞の活用形を正しいつづりで書くことができているか。 ③ 学んだことを基に正しいつづり、文法で作文することができているか。 ④ 学んだことを定着させ、それを基に文を正しく理解し、書くことができているか。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	授業概要の説明 Leçon 0 挨拶、アルファベ	講義、グループワーク	Leçon 0 練習問題の復習、小テストの準備
2	小テスト Leçon 0 発音とつづり、数字	講義、グループワーク	Leçon 0 練習問題の復習、小テストの準備
3	小テスト Leçon 1 前置詞、強勢形	講義、グループワーク	Leçon 1 練習問題の復習、小テストの準備
4	小テスト Leçon 2 疑問文	講義、グループワーク	Leçon 2 練習問題の復習、小テストの準備
5	小テスト Leçon 2 否定文、副詞	講義、グループワーク	Leçon 2 練習問題の復習、小テストの準備
6	小テスト Leçon 3 疑問詞 où、d'où	講義、グループワーク	Leçon 3 練習問題の復習、小テストの準備
7	小テスト Leçon 4 動詞 être の活用	講義、グループワーク	Leçon 4 練習問題の復習、小テストの準備
8	小テスト ペア発表の準備	講義、グループワーク	ペア発表の練習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	ペア発表(1) Leçon 4 形容詞、国籍	学生の発表、講義、グループワーク	Leçon 4 練習問題の復習、小テストの準備
10	小テスト ペア発表(2) Leçon 5 名詞の性と数	学生の発表、講義、グループワーク	Leçon 5 練習問題の復習、小テストの準備
11	小テスト Leçon 5 名詞の指示と所有	講義、グループワーク	Leçon 5 練習問題の復習、小テストの準備
12	小テスト Leçon 6 定冠詞、縮約	講義、グループワーク	Leçon 6 練習問題の復習
13	Leçon 0～6 定冠詞の縮約までのまとめ	講義	Leçon 0～6 定冠詞の縮約までの復習
14	第1回授業内試験 シャンソンの歌詞を聴く	講義、グループワーク	シャンソンの歌詞の復習
15	試験の返却、解説 Leçon 6 動詞 aimer の活用	講義、グループワーク	試験と Leçon 6 練習問題の復習、小テストの準備
16	小テスト 好きなもの、嫌いなものについて書く	講義、仏作文、グループワーク	仏作文の復習、小テストの準備
17	小テスト Leçon 7 不定冠詞、部分冠詞	講義、グループワーク	Leçon 7 練習問題の復習、小テストの準備
18	小テスト Leçon 7 動詞 avoir の活用、ゼロ冠詞	講義、グループワーク	Leçon 7 練習問題の復習、小テストの準備
19	小テスト Leçon 8 er 動詞の活用(1)	講義、グループワーク	Leçon 8 練習問題の復習、小テストの準備
20	小テスト Leçon 9 er 動詞の活用(2)	講義、グループワーク	Leçon 9 練習問題の復習、小テストの準備
21	小テスト Leçon 10 ir 動詞の活用	講義、グループワーク	Leçon 10 練習問題の復習、小テストの準備
22	小テスト Leçon 10 メッセージを読む	講義、グループワーク	Leçon 10 メッセージ文の復習、小テストの準備
23	小テスト Leçon 11 re 動詞の活用(1) faire, dire	講義、グループワーク	Leçon 11 練習問題の復習、小テストの準備
24	小テスト Leçon 11 re 動詞の活用(2) その他の動詞	講義、グループワーク	Leçon 11 練習問題の復習、小テストの準備
25	小テスト Leçon 0～11 のまとめ	講義、グループワーク	Leçon 0～11 の復習
26	第2回授業内試験 自己紹介文を書く	仏作文	自己紹介文の作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	試験の返却、解説 自己紹介文の修正、発表練習	講義、グループワーク	試験の復習、自己紹介の練習
28	自己紹介 総括	学生の発表、講義	授業のふりかえり

テキスト	白石嘉治、西川葉澄、谷口清彦『トラントラン：初級フランス語・かんたんなことをコツコツやろう』(朝日出版社)
参考書	田島宏編『コレクションフランス語①入門』、『コレクションフランス語②初級』(白水社)
履修条件、前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。

科目名	FRN102: フランス語Ⅱ				担当教員	塩谷 優衣		
開講期	春	開講時限	月木5限		研究室	4号館2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	フランス語初級							
授業の概要	本科目は「フランス語Ⅰ」履修者を主な対象とする。「フランス語Ⅰ」で学んだ基本要素を理解していることを前提に初級文法を学ぶ。フランス語を聞き、話し、読み、書く練習を行うが、とりわけ読み、書く練習に重点を置く。							
達成目標 (授業の目的)	「フランス語Ⅰ」で学んだ基本要素を定着させ、より複雑な構文を読み、書き、聞き、話す能力を養う。フランス語検定5級に相当するフランス語力を獲得する。							
到達目標 (学修成果)	① はじめて聞く／読む単語や文を、学んだことを手がかりに主体的に理解しようとする姿勢をもつことができる。 ② 基本的な単語と動詞の活用形を正しくつづることができる。 ③ 初級文法を用いた文を読んで正しく理解し、書くことができる。							
評価方法	① 授業中に行うグループワークへの参加（10%） ② 小テスト（20%） ③ 第1回授業内試験（30%）、第2回授業内試験（40%）							
評価基準	① 他の学生と協力し、積極的に活動に参加しているか。 ② 学んだ単語や動詞の活用形を正しいつづりで書くことができているか。 ③ 学んだことを定着させ、それを基に文を正しく理解し、書くことができているか。							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	フランス語Ⅰの復習（1） 前置詞と強勢形、疑問と否定、êtreと形容詞	講義、グループワーク	Leçon 0～4 練習問題の復習
2	フランス語Ⅰの復習（2） 名詞の指示と所有、冠詞	講義、グループワーク	Leçon 5～7 練習問題の復習
3	フランス語Ⅰの復習（3） er動詞	講義、グループワーク	Leçon 8, 9 練習問題の復習、 小テストの準備
4	小テスト Leçon 10 ir動詞の活用	講義、グループワーク	Leçon 10 練習問題の復習、 小テストの準備
5	小テスト Leçon 10 メッセージを読む	講義、グループワーク	Leçon 10 メッセージ文の復習、 小テストの準備
6	小テスト Leçon 11 re動詞の活用（1）faire、dire	講義、グループワーク	Leçon 11 練習問題の復習、 小テストの準備
7	小テスト Leçon 11 re動詞の活用（2）その他の動詞	講義、グループワーク	Leçon 11 練習問題の復習、 小テストの準備
8	小テスト Leçon 12 oir動詞の活用、11～20の数	講義、グループワーク	Leçon 12 練習問題の復習、 小テストの準備
9	小テスト Leçon 12 非人称のil	講義、グループワーク	Leçon 12 練習問題の復習、 小テストの準備
10	小テスト Leçon 13 中性代名詞y、le	講義、グループワーク	Leçon 13 練習問題の復習、 小テストの準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	小テスト Leçon13 中性代名詞 en	講義、グループワーク	Leçon 13 練習問題の復習、小テストの準備
12	小テスト Leçon 10~13 のまとめ	講義、グループワーク	Leçon 10~13 の復習
13	第1回授業内試験 20以上の数	講義、グループワーク	数の復習
14	試験の返却、解説 Leçon 14 人称代名詞(1) 直接目的語	講義、グループワーク	試験と Leçon 14 練習問題の復習、小テストの準備
15	小テスト Leçon 14 人称代名詞(2) 間接目的語	講義、グループワーク	Leçon 14 練習問題の復習、小テストの準備
16	小テスト Leçon 15 比較(1) 副詞、形容詞	講義、グループワーク	Leçon 15 練習問題の復習、小テストの準備
17	小テスト Leçon 15 比較(2) beaucoup、bien、bon	講義、グループワーク	Leçon 15 練習問題の復習、小テストの準備
18	小テスト Leçon 16 代名動詞	講義、グループワーク	Leçon 16 練習問題の復習、小テストの準備
19	小テスト Leçon 16 命令法、道案内をする	講義、グループワーク	Leçon 16 練習問題の復習、小テストの準備
20	小テスト Leçon 17 関係代名詞(1) qui、que	講義、グループワーク	Leçon 17 練習問題の復習、小テストの準備
21	小テスト Leçon 17 関係代名詞(2) où、dont	講義、グループワーク	Leçon 17 練習問題の復習、小テストの準備
22	小テスト Leçon 18 強調構文、倒置、曜日	講義、グループワーク	Leçon 18 練習問題の復習、小テストの準備
23	小テスト Leçon 18 疑問代名詞、疑問形容詞	講義、グループワーク	Leçon 18 練習問題の復習、小テストの準備
24	小テスト Leçon 18 疑問副詞、100以上の数	講義、グループワーク	Leçon 18 練習問題の復習、小テストの準備
25	小テスト Leçon 14~18 のまとめ	講義、グループワーク	Leçon 14~18 の復習
26	第2回授業内試験 Leçon 19 半過去	講義、グループワーク	Leçon 19 練習問題の復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	試験の返却、解説 Leçon 20 複合過去	講義、グループワーク	試験と Leçon 20 練習問題の復習
28	総括	講義	授業のふりかえり

テキスト	白石嘉治、西川葉澄、谷口清彦『トラントラン：初級フランス語・かんたんなことをコツコツやろう』(朝日出版社)
参考書	田島宏編『コレクションフランス語①入門』、『コレクションフランス語②初級』、『コレクションフランス語③文法』(白水社)
履修条件、前提科目	フランス語 I の単位を修得済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。(『履修要覧』P.62~P.63を参照のこと。)
その他特記事項	仏和辞書を引く習慣をつけること。

科目名	SPN101: スペイン語 I				担当教員	大堂 果林		
開講期	春/秋	開講時限	(春) 月木 4 限 (秋) 月木 3 限		研究室	4号館 2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペイン、ラテンアメリカ、スペイン語圏の文化							
授業の概要	スペイン語の基礎を学ぶ。スペイン語の文法構造を理解し、初級レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 技能を習得する。文法知識を用いて運用力とコミュニケーション能力を養い、言語だけでなくスペイン語圏の文化・習慣について学ぶ。							
達成目標 (授業の目的)	本講はスペイン語の学習を通して、スペイン語やスペイン語圏への理解を深め、異なる文化・習慣に対する柔軟性と寛容な態度を身に付けることを目標とする。学んだ文法知識を活用し、授業中に行う会話練習を通してスペイン語を発話することに慣れ、英語以外の外国語でもコミュニケーションを行う楽しさを実感する。							
到達目標 (学修成果)	スペイン語を習得するために非常に重要である「動詞の活用」の仕組み・方法をしっかりと理解する。日本語とは異なる名詞の性と数や形容詞の性数一致などの発想と仕組みを学ぶ。語彙を増やし、基礎的なスペイン語を「読み」「書き」することができるようになる。挨拶や簡単な日常会話を「聞いて」理解し、ゆっくりではあるが「話す」ことができるようになる。							
評価方法	①定期試験：40%、②小テスト：10%、③授業への積極参加：25%、④授業外の課題：25%							
評価基準	①定期試験：授業内容を理解し、スペイン語の運用能力が身についているかを評価する。 ②小テスト：単元ごとに短文テストを実施し、授業外の課題に取り組む態度を評価する。 ③授業への積極参加：正解・不正解を問わず、しっかりと考えて回答しているか。また、質問や意見、ペアワークへの積極参加など「主体的に学ぶ姿勢」も評価する。 ④授業外の課題：授業内容を理解したうえで、授業内で指示する練習問題の課題を確実にこなしているかを評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	スペイン語とスペイン語圏の紹介	講義、質疑応答	シラバスの確認
2	Unidad 1 挨拶、アルファベット、発音	講義、練習問題、ペアワーク	挨拶の復習
3	Unidad 1 発音、アクセント、注意の必要な綴り	講義、練習問題、ペアワーク	発音の復習
4	Unidad 1 固有名詞、数字	講義、練習問題、ペアワーク	発音・アクセントの復習
5	Unidad 1 挨拶の表現 (名前の自己紹介)	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 1 の総復習
6	Unidad 2 名詞の「性」と「数」 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 1 短文テストのための予習
7	Unidad 2 定冠詞、主語代名詞	講義、練習問題、ペアワーク	名詞の性と数の復習
8	Unidad 2 動詞 ser の直接法現在形 疑問文と否定文	講義、練習問題、ペアワーク	動詞 ser の直接法現在形 疑問文と否定文の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	Unidad 2 数字・職業・国籍を表す表現	講義、練習問題、ペアワーク	数字・職業・国籍を表す表現の復習
10	Unidad 3 不定冠詞、品質形容詞 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 2 短文テストのための予習
11	Unidad 3 所有詞前置形、動詞 tener の直接法現在形	講義、練習問題、ペアワーク	不定冠詞、品質形容詞の復習
12	Unidad 3 疑問詞	講義、練習問題、ペアワーク	所有詞前置形、動詞 tener の直接法現在形の復習
13	Unidad 3 数字・家族を表す表現	講義、練習問題、ペアワーク	疑問詞の復習
14	Unidad 4 指示形容詞、指示代名詞 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 3 短文テストのための予習
15	Unidad 4 動詞 estar の直接法現在形	講義、練習問題、ペアワーク	指示形容詞、指示代名詞の復習
16	Unidad 4 動詞 haber の用法	講義、練習問題、ペアワーク	動詞 estar の直接法現在形の復習
17	Unidad 4 場所を表す副詞、序数	講義、練習問題、ペアワーク	動詞 haber の用法の復習
18	Unidad 5 規則動詞の直接法現在形 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 4 短文テストのための予習
19	Unidad 5 規則動詞の直接法現在形の復習 不規則動詞の直接法現在形	講義、練習問題、ペアワーク	規則動詞の直接法現在形の復習
20	Unidad 5 不規則動詞の直接法現在形の復習 現在形の用法、疑問詞	講義、練習問題、ペアワーク	不規則動詞の直接法現在形の復習
21	Unidad 5 曜日、頻度を表す副詞表現	講義、練習問題、ペアワーク	現在形の用法、疑問詞の復習
22	Unidad 6 前置詞 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 5 短文テストのための予習
23	Unidad 6 未来を表す表現 (ir a + 不定詞)	講義、練習問題、ペアワーク	前置詞を使った表現の復習
24	Unidad 6 語幹母音変化動詞、動詞 salir と動詞 venir の活用	講義、練習問題、ペアワーク	未来を表す表現 (ir a + 不定詞) の復習
25	Unidad 6 時間・月と季節・交通機関を表す表現	講義、練習問題、ペアワーク	語幹母音変化動詞、動詞 salir と動詞 venir の活用の復習
26	第 25 回までの授業内容のまとめ 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 6 短文テストのための予習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	スペイン語圏の文化・習慣	講義、質疑応答	スペイン語圏についての復習
28	定期試験の返却と解説、全体のまとめ	返却、講義、質疑応答	第 27 回までの授業内容の復習

テキスト	スペイン語教材研究会『Entre amigos 1 - 2ª edición -』(朝日出版社)
参考書	廣康好美『これならわかる スペイン語文法 入門から上級まで』(NHK 出版) 高垣敏博(監修)『西和中辞典』(第 2 版)(小学館)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	継続的に復習し、授業中は積極的に発言することが望ましい。辞書を購入し、毎回持参することを推奨する。

科目名	SPN102: スペイン語Ⅱ			担当教員	大堂 果林	
開講期	春	開講時限	月木3限		研究室	4号館2階 講師控室
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20を参照のこと
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要				学修成果獲得の観点
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				4-①
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペイン、ラテンアメリカ、スペイン語圏の文化					
授業の概要	「スペイン語Ⅰ」の復習をしながら、スペイン語の習得を進めていく。スペイン語の基本的な文法事項を習得し、より表現豊かなスペイン語の運用能力を身に付ける。言語の習得とともにスペイン語圏の文化・習慣について理解を深める。					
達成目標(授業の目的)	本講はスペイン語の学習を通して、スペイン語やスペイン語圏への理解を深め、異なる文化・習慣に対する柔軟性と寛容な態度を身に付けることを目標とする。授業中に行う会話練習を通してスペイン語を発話することに慣れ、英語以外の外国語でもコミュニケーションを行う楽しさを実感する。また、スペイン語Ⅰよりさらに発展したスペイン語を学び、その後も継続して学び続けることのできる自律的な学習者を目指す。					
到達目標(学修成果)	スペイン語を習得するために非常に重要である「動詞の活用」の仕組み・方法をしっかりと理解して自分でスペイン語を「読み」「書き」する際にも適切に使いこなせるようになる。スペイン語特有の発想方法を学び、慣用表現なども用いて日常の出来事や自分の意見・感情などを正確に伝えることができるようになる。さらには語彙を増やし、豊かな言語表現を行えるようになる。					
評価方法	①定期試験：40%、②小テスト：10%、③授業への積極参加：25%、④授業外の課題：25%					
評価基準	①定期試験：授業内容を理解し、スペイン語の運用能力が身についているかを評価する。 ②小テスト：単元ごとに短文テストを実施し、授業外の課題に取り組む態度を評価する。 ③授業への積極参加：正解・不正解を問わず、しっかりと考えて回答しているか。また、質問や意見、ペアワークへの積極参加など「主体的に学ぶ姿勢」も評価する。 ④授業外の課題：授業内容を理解したうえで、授業内で指示する練習問題の課題を確実にこなしているかを評価する。					
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。					

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	現在形の動詞を用いた表現の復習	講義、質疑応答、ペアワーク	シラバスの確認
2	Unidad 7 規則動詞と不規則動詞の復習	講義、練習問題、ペアワーク	現在形の動詞を用いた表現の復習
3	Unidad 7 語幹母音変化動詞	講義、練習問題、ペアワーク	規則動詞と不規則動詞の復習
4	Unidad 7 再帰動詞の活用	講義、練習問題、ペアワーク	語幹母音変化動詞の復習
5	Unidad 7 再帰動詞の用法、天候表現	講義、練習問題、ペアワーク	再帰動詞の活用の復習
6	Unidad 8 直接目的人称代名詞、動詞 ver 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 7 短文テストのための予習
7	Unidad 8 動詞 saber と動詞 conocer の使い分け、(saber + 不定詞) と (poder + 不定詞)	講義、練習問題、ペアワーク	直接目的人称代名詞、動詞 ver の復習
8	Unidad 8 (poder + 不定詞)、(querer + 不定詞)	講義、練習問題、ペアワーク	動詞 saber と動詞 conocer の使い分けの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	Unidad 9 間接人称代名詞 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 8 短文テストのための予習
10	Unidad 9 動詞 dar、traer、decir の活用と用法	講義、練習問題、ペアワーク	間接人称代名詞の復習
11	Unidad 9 比較表現(比較級と最上級)	講義、練習問題、ペアワーク	動詞 dar、traer、decir の活用と用法の復習
12	Unidad 10 動詞 gustar の考え方 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 9 短文テストのための予習
13	Unidad 10 Gustar 型のその他の動詞	講義、練習問題、ペアワーク	動詞 gustar の考え方の復習
14	Unidad 10 副詞・数量の比較表現	講義、練習問題、ペアワーク	Gustar 型のその他の動詞の復習
15	Unidad 11 動詞 doler の用法 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 10 短文テストのための予習
16	Unidad 11 動詞 estar と動詞 ser の使い分け	講義、練習問題、ペアワーク	動詞 doler の用法の復習
17	Unidad 11 感嘆文、(tener que + 不定詞)(hay que + 不定詞)の表現	講義、練習問題、ペアワーク	動詞 estar と動詞 ser の使い分けの復習
18	Unidad 11 不定語と否定語、体調・感情表現	講義、練習問題、ペアワーク	(tener que + 不定詞)(hay que + 不定詞)の表現の復習
19	Unidad 12 直接法点過去の規則活用 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 11 短文テストのための予習
20	Unidad 12 直接法点過去の不規則活用、時を表す副詞表現	講義、練習問題、ペアワーク	直接法点過去の規則活用の復習
21	Unidad 13 直接法線過去	講義、練習問題、ペアワーク	直接法点過去の不規則活用の復習
22	Unidad 13 直接法点過去・線過去の使い分け	講義、練習問題、ペアワーク	直接法線過去の復習
23	Unidad 14 不定形(不定詞、過去分詞、現在分詞)、直接法現在完了	講義、練習問題、ペアワーク	Unidad 12 短文テストのための予習
24	Unidad 14 進行形(estar + 現在分詞)	講義、練習問題、ペアワーク	直接法現在完了の復習
25	Unidad 15 命令形	講義、練習問題、ペアワーク	進行形の復習
26	第25回までの授業内容のまとめ 小テスト、試験の返却、および解説	講義、練習問題、ペアワーク	命令形の復習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	スペイン語圏の文化・習慣	講義、質疑応答	スペイン語圏についての復習
28	定期試験の返却と解説、全体のまとめ	返却、講義、質疑応答	第27回までの授業内容の復習

テキスト	スペイン語教材研究会『Entre amigos 1 - 2ª edición -』(朝日出版社)		
参考書	廣康好美『これならわかる スペイン語文法 入門から上級まで』(NHK 出版) 高垣敏博(監修)『西和中辞典』(第2版)(小学館)		
履修条件、前提科目	スペイン語 I の単位を修得済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。(『履修要覧』P.62~P.63を参照のこと。)		
その他特記事項	継続的に復習し、授業中は積極的に発言することが望ましい。辞書を購入し、毎回持参することを推奨する。		

科目名	CHN101: 中国語 I				担当教員	廣重 聖佐子		
開講期	春／秋	開講時限	(春) 月木 4 限 (秋) 月木 3 限		研究室	4 号館 2 階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	オフィスアワー	P.19～P.20 を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	第二外国語・中国語・入・ピンイン習得							
授業の概要	今年度の授業は教科書の前半部分を使用する。各課は 2 回の授業で 1 課を終了する。1 回目の授業では、単語と文法解説後、各自本文の文法チェックをして授業終了時に提出する。さらに宿題プリントで練習問題を次回授業の開始時に提出する。2 回目の授業では、本文の音読練習と音読テストをし、さらに会話練習をする。また同時に中華圏の文化や習慣も学ぶ。今年度は音読と会話が中心なので各自教科書音声のダウンロードをしておくこと。							
達成目標 (授業の目的)	中国語学習に必要な不可欠なピンイン、初級入門程度の基礎的な文法事項、挨拶などを反復練習によって習得する。							
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ピンインを習得し本文の音読ができる。 ・教科書本文の基本的な単語や文法事項が理解できる。 ・練習問題や宿題プリント等で簡単な和文中訳ができる。 							
評価方法	①授業内課題：授業内提出物、宿題プリント (20%) ②音読テスト：各課終了時 (10%) 28 回目の授業 (10%) ③授業内試験：2 回の筆記試験 (60%)							
評価基準	①授業内課題：各授業終了時に提出。宿題プリントを次回に提出。遅れた場合は減点。 ②音読テスト：28 回に課題の音読テストをする。ピンインが読めない場合は減点。 ③授業内試験：12 回と 27 回に実施。学習した単語と文法事項が理解できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	第 1 課 中国語について 発音 (1) 中国語の音節、声調	発音練習と解説	第 1 課復習と発音練習 ドリル p7
2	第 2 課 発音 (2) 単母音、複母音	発音練習と解説	第 2 課復習と発音練習 ドリル p11
3	第 3 課 発音 (3) 子音 (1)	発音練習と解説 発音テスト	第 3 課復習と発音練習 ドリル p15
4	第 4 課 発音 (4) 子音 (2)	発音練習と解説	第 4 課復習と発音練習 ドリル p19
5	第 5 課 名前の言い方とたずね方、人称代名詞、単語と文法	単語と文法解説	第 5 課単語と文法の確認 宿題プリント
6	第 5 課 名前の言い方とたずね方、人称代名詞、音読と会話	音読練習とテスト 会話練習	音読練習 復習プリント
7	第 6 課 動詞「是」、助詞「的」 単語と文法	単語と文法解説	第 6 課単語と文法の確認 宿題プリント
8	第 6 課 動詞「是」、助詞「的」 音読と会話	音読練習とテスト 会話練習	音読練習 復習プリント
9	第 7 課 基本語順 S + V + O、連動文 単語と文法	単語と文法解説	第 7 課単語と文法の確認 宿題プリント
10	第 7 課 基本語順 S + V + O、連動文 音読と会話	音読練習とテスト 会話練習	音読練習 復習プリント

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
11	前半の復習 文法と練習問題の復習 音読テストと提出物の期限	復習 試験の告知	第1課から7課までの復習
12	授業内試験①	筆記試験 第3課準備	第1課から7課までの復習
13	第8課 希望や願望を表す助動詞「想」 動詞「有」、指示代名詞、単語と文法	試験の講評 単語と文法解説	第8課単語と文法の確認 宿題プリント
14	第8課 希望や願望を表す助動詞「想」 動詞「有」、指示代名詞、音読と会話	音読練習とテスト 会話練習	音読練習 復習プリント
15	第9課 動詞「在」、方向詞、前置詞「从・往」、場所を表す指示代名詞、単語と文法	単語と文法解説	第9課単語と文法の確認 宿題プリント
16	第9課 動詞「在」、方向詞、前置詞「从・往」、場所を表す指示代名詞、音読と会話	音読練習とテスト 会話練習	音読練習 復習プリント
17	第10課 数の言い方、お金の言い方、値段のたずね方、形容詞述語文、単語と文法	単語と文法解説	第10課単語と文法の確認 宿題プリント
18	第10課 数の言い方、お金の言い方、値段のたずね方、形容詞述語文、音読と会話	音読練習とテスト 会話練習	音読練習 復習プリント
19	第11課 年月日、曜日の言い方、年齢の言い方、単語と文法	単語と文法解説	第11課単語と文法の確認 宿題プリント
20	第11課 年月日、曜日の言い方、年齢の言い方、音読と会話	音読練習とテスト 会話練習	音読練習 復習プリント
21	第12課 量詞、動詞の重ね型 単語と文法	単語と文法解説	第12課単語と文法の確認 宿題プリント
22	第12課 量詞、動詞の重ね型 音読と会話	音読練習とテスト 会話練習	音読練習 復習プリント
23	第13課 時刻の言い方、新事態の発生や状態の変化を表す文末の「了」、単語と文法	単語と文法解説	第13課単語と文法の確認 宿題プリント
24	第13課 時刻の言い方、新事態の発生や状態の変化を表す文末の「了」、音読と会話	音読練習とテスト 会話練習	音読練習 復習プリント
25	第14課 時間の長さの言い方、動作行為の完了を表す助詞「了」、単語と文法	単語と文法解説	第14課単語と文法の確認 宿題プリント
26	第14課 時間の長さの言い方、動作行為の完了を表す助詞「了」、音読と会話	音読練習とテスト 会話練習、試験の告知	音読練習 復習プリント
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	授業内試験②	筆記試験 音読テストの準備	第8課から14課までの復習
28	試験返却と講評 音読テスト	講評 音読テスト	音読テストの練習

テキスト	陳淑梅・劉光赤『しゃべっていいとも中国語トータル版』（朝日出版社）
参考書	守屋宏則・李軼倫『やさしくくわしい中国語文法の基礎』改定新版（東方書店）
履修条件、前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他特記事項	就職活動等で欠席する際は事前に連絡すること。 20分以上の遅刻は欠席とする。

科目名	CHN102: 中国語Ⅱ				担当教員	廣重 聖佐子		
開講期	春	開講時限	月木3限		研究室	4号館2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	第二外国語・中国語・初級・音読・会話							
授業の概要	前年度使用した教科書の後半部分を引き続き学習する。各課3回で1課を終了する。1回目の授業では単語と文法ポイントを学習後、宿題プリントで練習問題を提出する。2回目の授業では本文読トレの音読練習と音読テストをする。3回目の授業では、宿題の解説とチャレンジで会話練習をする。授業では音読練習と練習問題を中心に繰り返し練習することにより学習の定着をはかる。							
達成目標 (授業の目的)	<ul style="list-style-type: none"> 中国語の初級課程を完了するとともに、学習した構文等を自分で分析し、和訳や中訳ができるようにする。 音読練習と初級過程の成果として、今まで学んだ構文を用いて中国語で自己紹介ができるようにする。 							
到達目標 (学修成果)	<ul style="list-style-type: none"> 本文の音読ができる。 文法事項が理解でき、和訳や練習問題ができる。 例文等を用いて中国語で表現できる。 							
評価方法	①授業課題：授業内での提出物と宿題プリント（20%） ②音読テスト：各課終了時授業中に行う（10%） ③自己紹介：7～10センテンスを発表（10%） ④授業内試験：2回の筆記試験（60%）							
評価基準	①授業課題：基本的な文法事項が理解できているか。宿題等提出物が遅れた場合は減点。 ②音読テスト：本文（読トレ）が正しく音読できるか。 ③自己紹介：24回目の授業までに原稿を提出し、原稿返却後28回目の授業時に発表する。翻訳ソフトでの翻訳や原稿を見ながらの発表は減点。 ④授業内試験：13回と27回に筆記試験を実施。学習した単語や構文が理解できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	第7課 時点と時量、前置詞「从・到・离」結果補語、方向詞② 解説	単語と文法解説	7課の単語と文法の確認 宿題プリント
2	第7課 時点と時量、前置詞「从・到・离」結果補語、方向詞② 音読	音読練習とテスト	読トレ音読、課題 p95 耳トレ チャレンジ予習
3	第7課 時点と時量、前置詞「从・到・离」結果補語、方向詞② 練習	宿題の解説 会話練習とテスト	総合練習第7課
4	第8課 助動詞「会」、動作完了の助詞「了」、様態補語、二重目的語をとる動詞、解説	単語と文法解説	8課の単語と文法の確認 宿題プリント
5	第8課 助動詞「会」、動作完了の助詞「了」、様態補語、二重目的語をとる動詞、音読	音読練習とテスト	読トレ音読、課題 p103 耳トレ、 チャレンジ予習
6	第8課 助動詞「会」、動作完了の助詞「了」、様態補語、二重目的語をとる動詞、練習	宿題の解説 会話練習とテスト	総合練習第8課
7	第9課 進行を表す「在」、助詞「过」、主述述語文、前置詞「对・给・跟」、解説	単語と文法解説	9課の単語と文法の確認 宿題プリント
8	第9課 進行を表す「在」、助詞「过」、主述述語文、前置詞「对・给・跟」、音読	音読練習とテスト	読トレ音読、課題 p111 耳トレ、 チャレンジ予習
9	第9課 進行を表す「在」、助詞「过」、主述述語文、前置詞「对・给・跟」、練習	宿題の解説 会話練習とテスト	総合練習第9課

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	第10課「(是)～V的」構文、可能性を表す「会」、二つの「少し」、解説	単語と文法解説	10課の単語と文法の確認 宿題プリント
11	第10課「(是)～V的」構文、可能性を表す「会」、二つの「少し」、音読	音読練習とテスト	読トレ練習、課題 p119 耳トレ、チャレンジ予習
12	第10課「(是)～V的」構文、可能性を表す「会」、二つの「少し」、練習	宿題の解説 会話練習とテスト	総合練習第10課
13	授業内試験① 第11課の準備	筆記試験 12課の単語と文法解説	第7課から10課までの復習
14	第11課「把」構文、助動詞「得」、受身文解説	単語と文法解説	11課の単語と文法の確認 宿題プリント
15	第11課「把」構文、助動詞「得」、受身文音読	音読練習とテスト	読トレ練習、課題 p127 耳トレ、チャレンジ予習
16	第11課「把」構文、助動詞「得」、受身文練習	宿題の解説 会話練習とテスト	総合練習第11課
17	第12課 方向補語、可能補語、使役文解説	単語と文法解説	12課の単語と文法の確認 宿題プリント
18	第12課 方向補語、可能補語、使役文音読	宿題の解説 会話練習とテスト	読トレ練習、課題 p135 耳トレ、チャレンジ予習
19	第12課 方向補語、可能補語、使役文練習	宿題の解説 会話練習とテスト	総合練習第12課
20	第13課 複文、「有」を用いた連動文、禁止を表す副詞「別」、解説	単語と文法解説	13課の単語と文法の確認 宿題プリント
21	第13課 複文、「有」を用いた連動文、禁止を表す副詞「別」、音読	音読練習とテスト	読トレ練習、課題 p143 耳トレ、チャレンジ予習
22	第13課 複文、「有」を用いた連動文、禁止を表す副詞「別」、練習	宿題の解説 会話練習とテスト	総合練習第13課
23	第14課 アスペクト助詞「着」、V1着V2現存文、近接未来「快～了」、解説	単語と文法解説	14課の単語と文法の確認 宿題プリント
24	第14課 アスペクト助詞「着」、V1着V2現存文、近接未来「快～了」、音読	音読練習とテスト	読トレ練習、課題 p151 耳トレ、チャレンジ、自己紹介
25	第14課 アスペクト助詞「着」、V1着V2現存文、近接未来「快～了」、練習	宿題の解説 会話練習とテスト	総合練習第14課
26	第11課から14課の総復習 試験の告知と質問	復習と試験内容の告知 提出物の確認	第11課から14課までの復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	授業内試験② 自己紹介の準備	筆記試験 自己紹介の準備と確認	第11課から14課までの復習
28	授業内試験の返却と講評 自己紹介	講評 自己紹介の発表	第11課から14課までの復習

テキスト	沈国威 監修『読む・書く・話す・書く 中国語でコミュニケーション』（朝日出版社）
参考書	守屋宏則・李軼倫『やさしくくわしい中国語文法の基礎』改訂新版（東方書店）
履修条件、前提科目	中国語Ⅰの単位を修得済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。（『履修要覧』P.62～P.63を参照のこと。）
その他特記事項	就職活動等で遅刻、欠席する際は事前に連絡すること。

科目名	JPN250: 日本語表現法				担当教員	河北 祐子		
開講期	春/秋	開講時限	(春) 月3限 (秋) 金3限		研究室	4号館2階 講師控室		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	事実・意見 書き言葉と話し言葉、構成							
授業の概要	話し言葉と書き言葉の違いを知り、論理的に自分の考えや意見を説明するにふさわしい語彙、表現、文章を学ぶ。論文を構成する序論、本論、結びの3つの構造に従った書き方を体験しながら論文を完成させていく。学生間および教師によるフィードバックなどから、客観的に自分の表現についてふり返り、学びを進める。							
達成目標(授業の目的)	自分の日本語を意識的にふり返り、客観的で説得力ある論文を書くために、事実と意見を的確な表現で書き分け、構成された論文が書けるようになる。							
到達目標(学修成果)	論文にふさわしい表現を用い、構成がしっかりした1500字程度の説得力ある小論文が学期末に書けるようになる。							
評価方法	① 授業態度：積極的な発言、責任ある授業参加をする。 30% ② 授業課題：「書いてみよう」を次の授業までにMoodleに提出する。 リアクションペーパーにタスク、練習問題について記載する。 20% ③ 小論文：Wordで作成し、学期末の指定期間内にMoodleに提出する。 50%							
評価基準	① 授業態度：他者の発言・発表を真摯に聴き、フィードバックする。 ② 授業課題：指定されたポイント、提出期限を守っているか。欠席した場合はMoodleをチェックし、時間までに提出する。 ③ 小論文：授業で学んだ論文構成に従い、論文にふさわしい表現をしているか。信頼できるリソースを用い、他者の意見を自分の意見と区別し、自身の考察ができていないか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	〔基礎編〕 よく使われる文の形、語と表現	講義、質疑応答、ペアワーク	教科書1-8頁を読んでくる。 タスク・練習問題をする。
2	引用、要約、句読点、表記規則 実際の論文で確認する。	講義、グループワーク、確認クイズ	8-22頁を読んでくる。 タスク・練習問題をする。
3	〔論文編Ⅰ〕論文とは、論文の構成、構成の作り方、本論のまとめ方、論文で確認する。	講義、グループワーク、確認クイズ	24-42頁を読んでくる。 タスク・練習問題をする。
4	書いてみよう①、3種類の文(FOA) 論文のモデル	講義、グループワーク、確認クイズ	43-50頁を読んでくる。 タスク・練習問題をする。
5	〔論文編Ⅱ序論〕序論の役割、背景説明、事物の説明、先行研究の紹介等	講義、グループワーク、確認クイズ	課題①提出、51-60頁読む、 タスク・練習問題をする。
6	問題提起、方向づけ	講義、グループワーク、確認クイズ	64-74頁を読んでくる。 タスク・練習問題をする。
7	書いてみよう②、全体の予告 〔本論編〕本論の役割	講義、グループワーク、確認クイズ	75-83頁を読んでくる。 タスク・練習問題をする。
8	論拠提示：データ提示、事柄データ	講義、グループワーク、確認クイズ	課題②提出、84-87頁読む。 タスク・練習問題をする。
9	数量データ、文章データ	講義、グループワーク、確認クイズ	87-93頁を読んでくる。 タスク・練習問題をする。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
10	意見提示、データ解釈、考察	講義、グループワーク、確認クイズ	93-99 頁を読んでくる。 タスク・練習問題をする。
11	結論提示、行動提示、論の展開、書いてみよう③〔資料編〕	講義、グループワーク、確認クイズ	100-132 頁を読んでくる。 タスク・練習問題をする。
12	序論、論拠発表会①	グループワーク、質疑応答	課題③提出、発表準備をしておく。
13	序論、論拠発表会② 提出小論文について	グループワーク、質疑応答、講義	発表準備をしておく。 提出論文の書き方を確認。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	小論文講評	講義、質疑応答	授業のふり返し、まとめ

テキスト	浜田麻里、平尾得子、由井紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』（くろしお出版）
参考書	『上智大学短期大学部紀要』

科目名	SEF200: キャリアプランニング				担当教員	森下 園		
開講期	秋	開講時限	金5限		研究室	4202		
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー	P.19～P.20を参照のこと	
DP及び学修成果	DP分類	DP（卒業認定・学位授与の方針）概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	キャリアデザイン、ライフコース、社会保障、労働法、卒業生との交流、職場での実務							
授業の概要	本学ソフィア会（同窓会）の支援により、社会の様々な分野で「Women for Others, with Others」を実践している卒業生の方々による講演・質疑応答を通して、卒業後のキャリアプランをどう組み立てるか考える。また、あわせて労働法などの基礎知識についても学ぶ。同窓生以外のゲスト講師の講義を含む。							
達成目標 (授業の目的)	①卒業後の人生設計について様々な可能性やその実現に向けて必要なステップを考え、②社会人として必要な労働法の知識を身につけ、③各自のキャリアプランを組み立てることが目標である。							
到達目標 (学修成果)	①現在の社会情勢と女性のライフコースの問題を各自で考え、卒業生の講演内容を通して将来の多様な可能性について考察できるようになる。 ②労働法や社会人として求められる基礎知識を身につけることができる。 ③各自のキャリアプランを設計できるようになる。							
評価方法	①リアクションペーパー：授業後 Moodle に提出、最終回を除く。(5%×13回=65%) ②定期試験：労働法に関する小テスト (15%) ③キャリアプランの作成 (20%)							
評価基準	①リアクションペーパー：同窓生講師の話から学んだことや考えたことを適切な文でまとめているか ②定期試験：社会人として求められる労働法の基礎知識が身についているか ③キャリアプラン：書式・期限を守り現実的なプランを作成しているか							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	ガイダンス 現代日本のライフコース	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出①
2	同窓生講師：外資系IT企業	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出②
3	同窓生講師：大手食品メーカー	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出③
4	同窓生講師：児童英語教材開発	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出④
5	同窓生講師：海外で日本語教師、JICA	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出⑤
6	同窓生講師：アメリカでの暮らし	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出⑥
7	同窓生講師：デザイン、漫画制作	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出⑦
8	ゲスト講師：少子高齢化をともに考える - 秦野市の公共施設更新問題 + 市役所での仕事とは	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出⑧

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
9	同窓生講師：韓国語通訳	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出⑨
10	同窓生講師：放送業界、アパレル、セラピスト	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出⑩
11	ゲスト講師：労働法について	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出⑪
12	同窓生講師：公立小学校での英語教育	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出⑫、キャリアプラン作成
13	同窓生講師：都市銀行での仕事	講義、質疑応答	リアクションペーパーの作成と提出⑬、キャリアプラン作成
定期試験を実施する Final Exam will be held		* 定期試験期間にキャリアプランを提出	
14	女性のキャリアについて、同窓生の講義の振り返り、定期試験の返却、キャリアプランの講評	講義、質疑応答、講評	振り返り

テキスト	なし、パワーポイントスライドなどを用いての講義となる。
参考書	厚生労働省「令和元年版 働く女性の実情」(https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/josei-jitsujo/19.html)、インターネットで閲覧可
その他特記事項	本講座は上智大学短期大学部ソフィア会（同窓会）の寄付講座であり、社会で活躍されている卒業生の方々がボランティアで講師をご担当下さるものである。担当される卒業生・講義内容・担当回は講師の方々のご都合により変更がある。確定版は9月中旬に Moodle の「2021 短大部 キャリアプランニング」にアップする。 なお、同窓生の講義はリアルタイムの Zoom で教室スクリーンに映し、学生からの質問は Google フォームで受け付ける予定である。

科目名	ENG253: 留学準備 B				担当教員	狩野 晶子	
開講期	秋	開講時限	月 5 限		研究室	4203	
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	オフィスアワー P.19～P.20 を参照のこと	
DP 及び学修成果	DP 分類	DP (卒業認定・学位授与の方針) 概要				学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。				3-④, 4-①	
キーワード	短期語学研修、異文化理解、安全管理、英語運用力						
授業の概要	この授業では、本学が認定する海外大学での短期語学研修プログラムに参加する学生が、滞在国に関する予備知識や、渡航と現地生活安全管理に際して留意事項を学び、目的意識を持ち自律した学習者として充実した留学生活を送ることを目指す。異文化理解の一環として滞在国について調べ、発表を通して理解を深める。さらに現地での実践的英語使用運用及び英語学習に向けた準備を行うことで学生が主体的にプログラムに参加する素地を作る。						
達成目標 (授業の目的)	学生は安全に留学が完遂できるよう、海外生活に関する基本的知識、危機管理等の留意事項を学ぶ。留学先で想定される異文化体験への準備を行い、目的意識と自信をもって滞在国での学習と生活ができるように備える。滞在国について学び、自国の文化と対比し異文化を客観的に理解し表出できるようになる。さらに留学先での英語運用と英語学習に備え学ぶ。						
到達目標 (学修成果)	留学に向けて、渡航および現地生活の際の安全管理の留意事項を理解する。滞在国に関する知識を深め自国の文化と対比しながら発信できるようになる。異文化を客観的に理解し英語で表出できるようになる。留学先で必要となる実践的な英語運用のスキルを磨き、現地大学での英語学習に備えて学び、効果的な英語力向上の道筋をつける。						
評価方法	①授業時の参加姿勢 (20%)、②滞在国・自国プレゼンテーション課題：準備及び発表 (30%)、③英語課題 (20%)、④授業時の省察及び最終課題 (30%)						
評価基準	①積極的に学ぶ姿勢と準備を行ったうえで授業に参加し、グループワークやアクティビティに主体的に取り組んでいるか。②滞在国に関して複数のリソースにあたり自国と対比しながら十分調べてまとめ、映像資料を効果的に使いながらプレゼンテーションをし、質疑応答にしっかり対応できたか。③英語力向上のための課題を解き、期日までに提出したか。④授業で自らの取り組みを省察し具体的かつ客観的に記述できたか。また、個々の省察をもとに学期を通した学修への取り組みを最終課題としてまとめ、期日までに提出できたか。						
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。						

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ガイダンス、留学の目的、どのような準備が必要か考える	講義、ペアワーク、グループワーク	留学の意義を考える
2	プログラムの概要と日程の説明、必要となる英語力とは：英語課題自己設定	講義、ペアワーク、グループワーク	英語課題を自己設定し具体的なプランを立てる
3	<u>手続きガイダンス (30分)</u> 各自の英語課題プランをシェアし相互講評	講義、ペアワーク、グループワーク	英語課題プランの改訂 英語課題に取り組む
4	滞在国の文化・伝統・歴史についてディスカッション・リサーチ、英語課題	講義、ペアワーク、グループワーク	プレゼンテーション準備 英語課題
5	滞在国の文化・伝統・歴史プレゼンテーションと相互講評①、英語課題	学生発表、グループワーク	プレゼンテーション準備 英語課題
6	滞在国の文化・伝統・歴史プレゼンテーションと相互講評②、英語課題	学生発表、グループワーク	プレゼンテーション準備 英語課題
7	滞在国の文化・伝統・歴史プレゼンテーションと相互講評③、英語課題	学生発表、グループワーク	プレゼンテーション準備 英語課題

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
8	自国について発信したい内容を考える ディスカッション・リサーチ、英語課題	講義、ペアワーク、 グループワーク	プレゼンテーション準備 英語課題
9	自国について発信プレゼンテーション 相互講評①、英語課題	学生発表、 グループワーク	プレゼンテーション準備 英語課題
10	自国について発信プレゼンテーション 相互講評②、英語課題	学生発表、 グループワーク	プレゼンテーション準備 英語課題
11	<u>危機管理ガイダンス（90分）</u> 英語課題への取り組みをシェアし相互講評	講義、ペアワーク、 グループワーク	ガイダンス内容まとめ 英語課題
12	『滞在国と自国について学んで』 異文化理解のためのセッション	講義、学生発表、 グループワーク	セッション内容まとめ 英語課題
13	『留学を経てどのような自分になりたいか』 自己省察と留学目的再確認のセッション	講義、学生発表、 グループワーク	セッション内容まとめ 英語課題
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	<u>出発前ガイダンス（60分）</u> 最終課題を共有、提出	講義、学生発表、 グループワーク	英語課題への取り組み省察 最終課題作成、提出準備

テキスト	テキストは指定しない。オリジナルのハンドアウトを使用。英語課題については学生が自分のレベルに応じて用意する。関連するウェブサイトや参考文献を授業時に随時提示する。
参考書	Information about Japan（外務省） http://www.mofa.go.jp/j_info/japan/general/index.html 『海外安全ホームページ』（外務省） https://www.anzen.mofa.go.jp/anzen_info/flash02.html
履修条件、 前提科目	今年度の春期海外短期語学研修プログラムに参加することが履修の条件である。 ただし、COVID-19の影響による渡航制限等の状況に応じて変更の可能性がある。
その他 特記事項	下線部ガイダンスは外部留学コーディネーターが参加予定。